

来週の『売り物』、記事はこれ



2016年9月9日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

償いの群像 東京電力福島復興本社

11日(日)



2011年3月11日に発生した東日本大震災から5年半。未曾有の原発事故を起こした東京電力が、法的責任の賠償に加え、道義的責任から復興活動に携わる福島復興本社を設置して3年8カ月が経過します。副社長の石崎芳行代表(63)と1700人の駐在社員を中心に、残る全社員3万人余が交代で短期滞在



し、住民が消えた避難地域の除草や家屋の清掃に取り組んでいます。これまでに社員1人が平均3回、延べ26万人が派遣されました。被災地の惨状に言葉を失い、苦悩する被災者に頭を下げ、「震災まで安全性を深く考えなかった」という原発に向き合う社員たち。福島の実状を見て、何を思ったのか。東電という巨大組織を形作る社員一人一人の「償い」に迫りました。

日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待下さい。

本格議論の前に押さえておくべきことは…

立ち止まって考える「改憲」

夕刊特集ワイド 13日(火)



この秋は「憲法改正」がホットなテーマになるかも。26日召集予定の臨時国会で、改憲を見据えた憲法審査会の審議が始まる可能性が出ています。先の参院選で与党が勝利し、改憲に前向きとされる勢力が衆参両院で3分の2に達し、国会発議への環境は整いましたが、このまま突き進んでいいのかとの疑問は拭えません。憲法を変えるとは、どういうことなのか、本当に「今」やるべきことなのか……識者とともに「立ち止まって」考えます。